

## 公立病院改革プランの概要

団 体 名	宇和島市						
プランの名称	宇和島市病院事業改革プラン						
策 定 日	平成 21 年 3 月 31 日						
対 象 期 間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度						
病院の現状	病院名	宇和島市立津島病院					
	所在地	愛媛県宇和島市津島町高田丙15番地					
	病床数	133床(一般88床・療養45床)うち一般28床休床					
	診療科目	内科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、小児科、循環器科、皮膚科、リハビリテーション科、放射線科、心療内科、脳神経外科、泌尿器科(全13科目)					
公立病院として今後果たすべき役割(概要)	<p>220km<sup>2</sup>と広大な面積を有する津島地区住民の信頼に応えられる医療水準を維持する。</p> <p>大学等に医師の確保を働きかけ、現在実施している訪問診察、訪問看護、訪問リハビリテーションなどの往診による在宅医療の充実を図る。</p> <p>救急告示病院として地域の1次医療、2次医療の要請に応じながら、受入患者の容態によっては3次救急を担っている市立宇和島病院へつないでいく体制を維持していく。</p> <p>市立宇和島病院との連携により、急性期治療後の受け皿となるなど病院機能に応じた亜急性期医療を充実していく。</p> <p>リハビリテーション医療、健診・医療相談、研究研修を実施する。</p>						
一般会計における経費負担の考え方(繰出基準の概要)	<p>以下の項目に関して、繰り出し基準に基づく繰り出しを行う。</p> <p>建設改良: 当該年度建設改良費のうち特定財源を除いた額の1/2 企業債元利償還金の1/2~2/3</p> <p>リハビリテーション医療に要する経費: リハビリ部門に要する費用 - 収益</p> <p>救急医療の確保に要する経費: 救急告示病院Bランク</p> <p>高度医療に要する経費: 高度医療機器に係る元利償還金の1/2</p> <p>保健衛生行政事務費・・・予防接種、健診、医療相談員設置</p> <p>不採算地区病院運営費財政措置経費</p> <p>研究研修費: 医師、看護師の研究研修に要する経費の1/2</p> <p>基礎年金拠出金に係る公的負担額</p> <p>児童手当に要する経費</p>						
経営効率化に係る計画	財務に係る数値目標(主なもの)	19年度実績	20年度	21年度	22年度	23年度	備考
	経常収支比率	93.1	88.9	98.2	98.8	99.6	単位: %
	職員給与費比率	65.1	62.0	58.9	58.6	57.8	単位: %
	病床利用率(一般病床)	52.2	55.7	61.4	61.4	61.4	許可病床
		87.6	89.6	90.0	90.0	90.0	稼働病床
	医業収支比率	93.4	89.4	96.3	94.3	93.3	単位: %
	一日平均患者数(入院)	88	93	98	98	98	単位: 人
	一日平均患者数(外来)	212	211	215	218	218	単位: 人
	患者1人1日当たり診療収入(入院)	21,485	20,658	21,359	21,359	21,359	単位: 円
	患者1人1日当たり診療収入(外来)	7,276	7,226	7,207	7,207	7,207	単位: 円
職員1人1日当たり診療収入(医師)	416,608	420,682	447,666	449,511	449,511	単位: 円	
職員1人1日当たり診療収入(看護部門)	44,541	44,977	47,862	48,059	48,059	単位: 円	
上記目標数値設定の考え方	<p>10対1入院基本料や亜急性期入院医療管理料の届出などにより、平成24年度に経常収支の黒字化を目指す。</p> <p>(経常黒字化の目標年度: 24年度)</p>						

				団体名 (病院名)	宇和島市 (宇和島市立津島病院)		
公立病院としての医療機能に係る 数値目標(主なもの)		19年度実績	20年度	21年度	22年度	23年度	備考
救急患者数(救急車搬入数)		1,021(214)	1,021(224)	1,021(224)	1,021(224)	1,021(224)	単位:人
手術件数		70	81	81	81	81	単位:件
全身麻酔手術件数		25	7	7	7	7	単位:件
救急患者入院比率		12.4%	12.4%	12.4%	12.4%	12.4%	単位:人
訪問診察件数		353	444	466	489	513	単位:件
訪問看護件数		735	1,186	1,245	1,307	1,372	単位:件
訪問リハビリ件数		497	477	501	526	552	単位:件
年間入院患者数		31,970	33,945	35,770	35,770	35,770	単位:人
年間外来患者数		51,947	51,759	52,756	53,410	53,410	単位:人
経営 効率化 に係る 計画	数値 目標 達成 に 向 け て の 具 体 的 な 取 組 及 び 実 施 時 期	経営情報の分析強化 医事管理業務、清掃業務、機械設備管理、給食管理などについては既に民間委託しており、今後とも費用対効果を見極めながら民間委託を進める。 人員管理の徹底を図り効率的配置に努める。					
	民間的経営手法の導入	経営情報の分析強化 医事管理業務、清掃業務、機械設備管理、給食管理などについては既に民間委託しており、今後とも費用対効果を見極めながら民間委託を進める。 人員管理の徹底を図り効率的配置に努める。					
	事業規模・形態の見直し	現在一般病床88床、療養病床45床の許可病床数からの削減を検討する。					
	経費削減・抑制対策	人件費の抑制に努め、看護師の退職者補充については嘱託職員とし、その他医療技術員等についても、嘱託で対応できるものは実施したい。 診療材料の在庫管理を事務室から中央材料室(手術室)で実施することで、管理品目を抑制したい。 光熱水費の節約について、中抜き電灯、節水、漏水の早期発見につとめる。 物品購入や各種管理委託業務に関しては、今までより広いエリアで該当業者を公募して、競争原理を働かせて経費の削減に努める。					
	収入増加・確保対策	関連大学への継続的な医師確保の要請と県医師確保対策事業(ドクターバンク事業)等やホームページを活用し、医師数増加を図る。 10対1入院基本料や亜急性期入院医療管理料の届出などにより、収入増加を図る。 救急医療懇談会を実施し、救急車搬送による患者増加を図っている。 定期的な請求書の送付や職員による訪問徴収を実施し、未収金の回収を目指す。 診療報酬取扱いマニュアルを基に定期的な学習会を開催し、請求の漏れ防止を目指す。 診察時間を延長し、患者満足度向上による増収を目指す。 診察、処方待ち時間等の時間短縮により、患者満足度向上を目指しリピート効果による増収を目指す。					
その他	地域住民の病気の予防と健康増進、津島病院への理解を深めることを目的として、平成18年度より医療懇談会を各自治会に呼びかけ、院長と事務職員1名が平成18年度は6自治会、平成19年度は20自治会、平成20年度は42自治会(3月16日現在予定数)をスライドを交えた講演と意見交換を実施しており、外来患者増加につながる試みとしている。 平成19年度より、2ヶ月に1回、各職場持ち回りの院内勉強会を開催し、各職場が創意工夫をし、テーマをもって業務にあたる動機付けをし、職場間の状況の理解や連携理解に役立っている。今後院内勉強会で蓄積された内容をテーマごとにまとめて、地域住民に健康講座として病院のノウハウを地域に還元し、病院と地域が一体となって健康作りを行いたい。						
各年度の収支計画		別紙のとおり					
その 他 事 項	病床利用率の状況 (一般病床)	17年度	73.1%	18年度	45.6%	19年度	52.2%
	稼働病床ベース		78.7%		90.5%		87.6%
	病床利用率の状況を踏 まえた病床数等の抜本 見直し、施設の増改築 計画の状況等						

団体名  
(病院名)

宇和島市  
(宇和島市立津島病院)

再編・ネットワーク化に係る計画	二次医療圏内の公立病院等配置の現況	<p>宇和島圏域(宇和島市・北宇和郡・南宇和郡)に、以下の病院が設置されている。</p> <p>市立宇和島病院(一般426床、結核5床、感染症4床)          宇和島市立吉田病院(一般96床、療養48床)          宇和島市立津島病院(一般88床、療養45床)</p> <p>(社)宇和島社会保険病院(一般200床)          鬼北町立北宇和病院(一般55床、療養45床)          愛媛県立南宇和病院(一般199床)          愛南町国保一本松病院(療養60床)</p>	
	都道府県医療計画等における今後の方向性	<p>地域の中核的な病院として重要な役割を担っており、地域の医療機関相互の連携の中心となることが期待されている。</p>	
	再編・ネットワーク化計画の概要及び当該病院における対応計画の概要 (注) 1 詳細は別紙添付 2 具体的な計画が未定の場合は、検討・協議の方向性、検討・協議体制、検討・協議のスケジュール、結論を取りまとめる時期を明記すること	<時期> 毎年度の点検時に方向性を見直す。	<内容> 市立宇和島病院は救急救命センターを併設しており、南予の中核病院として位置づけを求められており、鬼北町、西予市、愛南町からも救急受入等を行い、市内医師会等とは地域連携により開放病床において、かかりつけ医が患者を診療できる体制づくりを実施している。 市立宇和島病院は、新病院建設を機に、急性期病院に特化することとし、吉田・津島病院は旧町エリアの医療サービスを支え、また宇和島病院からの急性期を脱した患者の受入や、老人保健施設への協力や在宅医療等を行う施設としてサービス提供を行っている。
経営形態見直しに係る計画	経営形態の現況 (該当箇所に <input checked="" type="checkbox"/> を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 公営企業法財務適用	<input type="checkbox"/> 公営企業法全部適用 <input type="checkbox"/> 地方独立行政法人
	経営形態の見直し(検討)の方向性 (該当箇所に <input checked="" type="checkbox"/> を記入、検討中の場合は複数可)	<input type="checkbox"/> 公営企業法全部適用 <input type="checkbox"/> 民間譲渡	<input type="checkbox"/> 地方独立行政法人 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度
	経営形態見直し計画の概要 (注) 1 詳細は別紙添付 2 具体的な計画が未定の場合は、検討・協議の方向性、検討・協議体制、検討・協議のスケジュール、結論を取りまとめる時期を明記すること	<時期> 平成22年4月1日	<内容> 宇和島市病院等事業(3病院・2介護老人保健施設)を地方公営企業法の全部適用に移行。
点検・評価・公表等	点検・評価・公表等の体制(委員会等を設置する場合その概要)	<p>「(仮)宇和島市病院事業改革プラン評価委員会」を設置し、毎年度の決算と合わせて改革プランの取り組み状況の点検、評価、公表を行う。          その結果等については、ホームページ等により公表する。</p>	
	点検・評価の時期(毎年 月 頃等)	<p>「(仮)宇和島市病院事業改革プラン評価委員会」の審議を経て、毎年9月末までに公表する。</p>	
その他特記事項		特になし。	

(別紙)

団体名 (病院名)	宇和島市 (市立津島病院)
--------------	------------------

## 1. 収支計画 (収益的収支)

(単位:百万円、%)

区分		年度							
		18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
収 入	1. 医業収益 a	1,040	1,084	1,094	1,190	1,194	1,194	1,194	1,194
	(1) 料金収入	1,021	1,065	1,075	1,144	1,149	1,149	1,149	1,149
	(2) その他	19	19	19	46	46	46	46	46
	うち他会計負担金	0	0	0	27	27	27	27	27
	2. 医業外収益	42	39	29	70	69	68	67	66
	(1) 他会計負担金・補助金	27	23	16	53	52	51	50	49
	(2) 国(県)補助金	0	0	0	0	0	0	0	0
	(3) その他	15	16	12	17	17	17	17	17
	経常収益(A)	1,082	1,123	1,123	1,259	1,264	1,263	1,262	1,261
	支 出	1. 医業費用 b	1,192	1,161	1,224	1,235	1,242	1,231	1,200
(1) 職員給与費 c		701	706	679	701	700	690	660	685
(2) 材料費		198	188	186	211	213	213	213	213
(3) 経費		222	212	308	267	267	267	267	267
(4) 減価償却費		68	52	48	52	57	56	55	52
(5) その他		3	3	5	5	5	5	5	5
2. 医業外費用		52	46	38	47	37	37	36	25
(1) 支払利息		29	24	11	20	11	11	10	9
(2) その他		23	22	27	27	26	26	26	16
経常費用(B)		1,243	1,207	1,263	1,283	1,279	1,268	1,235	1,247
経常損益(A)-(B) (C)	161	84	140	23	15	5	26	14	
特別 損益	1. 特別利益(D)	0	13	1	1	1	1	1	1
	2. 特別損失(E)	9	20	6	4	4	4	4	4
	特別損益(D)-(E) (F)	9	7	6	4	4	4	4	3
純損益(C)+(F)	171	91	145	27	19	9	23	11	
累積欠損金(G)	421	512	657	684	703	711	689	678	
不 良 債 務	流動資産(ア)	268	346	237	241	249	310	382	448
	流動負債(イ)	568	715	714	711	711	783	783	833
	うち一時借入金	0	0	0	0	0	0	0	0
	翌年度繰越財源(ウ)	0	0	0	0	0	0	0	0
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (I)								
差引 不良債務 (オ)	301	369	477	470	462	473	401	385	
{(イ)-(I)} - {(ア)-(ウ)}									
単年度資金不足額( )	124	68	108	7	8	11	72	15	
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	87.0	93.1	88.9	98.2	98.8	99.6	102.1	101.1	
不良債務比率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$	28.9	34.0	43.6	39.5	38.7	39.6	33.5	32.3	
医業収支比率 $\frac{a}{b} \times 100$	87.3	93.4	89.4	96.3	96.2	97.0	99.6	97.7	
職員給与費対医業収益比 率 $\frac{(c)}{(a)} \times 100$	67.4	65.1	62.0	58.9	58.6	57.8	55.2	57.3	
地方財政法施行令第19条第1項 により算定した資金の不足額 (H)	301	369	477	470	462	473	401	385	
地方財政上の資金不足の割合 $\frac{(H)}{a} \times 100$	28.9	34.0	43.6	39.5	38.7	39.6	33.5	32.3	
地方公共団体の財政の健全化に関する 法律上の資金不足比率	28.9	34.0	43.6	39.5	38.7	39.6	33.5	32.3	
病床利用率	60.6	65.7	69.9	73.7	73.7	73.7	73.7	73.7	

( )N年度における単年度資金不足額については、次の算式により算出すること。

「N年度 単年度資金不足額」= (「N年度の不良債務額」- 「N-1年度の不良債務額」)

・不良債務額が負の数となる場合(不良債務が発生しない場合)においても負の数で上記単年度資金不足額を算出すること

例) '22年度単年度資金不足額 30百万円、= ('22年度不良債務額 20百万円、- '21年度不良債務額10百万円、)

団体名 (病院名)	宇和島市 (市立津島病院)
--------------	------------------

2. 収支計画(資本的収支)

(単位:百万円、%)

年度		18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
入	1. 企業債	17	163	77	53				2
	2. 他会計出資金	52	54	5					
	3. 他会計負担金	4	4	62	66	25	26	25	25
	4. 他会計借入金								
	5. 他会計補助金								
	6. 国(県)補助金								
	7. その他								
	収入計 (a)	73	221	144	119	25	26	25	27
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)								
	前年度許可債で当年度借入分 (c)								
純計(a) - ((b) + (c)) (A)	73	221	144	119	25	26	25	27	
支	1. 建設改良費	25	14	88	59				3
	2. 企業債償還金	78	238	90	89	43	49	46	45
	3. 他会計長期借入金返還金								
	4. その他					25	50		30
	支出計 (B)	103	252	178	148	68	99	46	78
差引不足額 (B) - (A) (C)	30	31	34	29	43	73	21	51	
補 て ん 財 源	1. 損益勘定留保資金	30	31	34	29	43	73	21	51
	2. 利益剰余金処分額								
	3. 繰越工事資金								
	4. その他								
計 (D)	30	31	34	29	43	73	21	51	
補てん財源不足額 (C) - (D) (E)	0	0	0	0	0	0	0	0	
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)									
実質財源不足額 (E) - (F)	0	0	0	0	0	0	0	0	

1. 複数の病院を有する事業にあっては、合計表のほか、別途、病院ごとの計画を作成すること。
2. 金額の単位は適宜変更することも可能。(例)千円単位。

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:千円)

	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
収益的収支	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
	27,217	23,195	14,974	79,865	79,249	78,479	77,351	76,391
資本的収支	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
	56,235	57,629	62,874	62,822	24,671	26,203	24,541	24,672
合計	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
	83,452	80,824	77,848	142,687	103,920	104,682	101,892	101,063

(注)

- 1 ( )内はうち基準外繰入金額を記入すること。
- 2 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰入金について」(総務省自治財政局長通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいうものであること。